

◆漁業士活用育成事業

平成22年度九州ブロック漁業士研修会報告

水産業改良普及センター 紫波 俊介

1. 日程

平成23年1月13日～14日

2. 開催場所

かごしま県民交流センター（鹿児島市）

3. 参加者

伊良部漁業協同組合指導漁業士 伊良波淳世

4. 講演題目等

1日目

(1) 鹿児島市中央卸売市場視察

(2) 九州ブロック漁業士研修会

①漁業士活動について

水産庁研究指導課普及育成班普及係長

田中 全

②浮魚類の資源動向と今後の展望について

(独) 水産総合研究センター中央水産研究所

資源評価部資源動態研究室長 西田 宏

③各県活動報告

2日目（青年・女性交流大会出席のため不参加）

鹿児島市周辺水産物直売所視察

5. 内容

(1) 鹿児島市中央卸売市場視察

今年は水温も高く、九州でもヤケは珍しくなかった。ヤケがないのであれば沖縄産を買いたいという業者もいた。本マグロでもヤケているものが多くなってるとのこと。県産ビンチョウマグロがあったが、セリに出る前に相対で売られていた。身質を見るため、肉を内部から取っていた（伊良部のヤケ確認と酷似）。

本日水揚げは少ないとのことであったが、水揚げが少ない割に値段は高くないとのこと。今

年に入ってからこの傾向は強いとのこと。物が少ないので、タイ産本マグロもあった。

(2) 九州ブロック漁業士研修会

①漁業士活動について

全国的にも漁業士間で意識の差、活動する人の固定化、予算不足、活動の低迷が問題視されている。水産庁からは、目的に立ち返っての活動を進めることが肝要ではないかとの提案であった。

「漁業士の目的」

見識ある優秀な漁業者として、浜を引っ張る存在（元々行政が漁業士個人に見返りを与える趣旨ではない）。

質疑応答にて宮崎県漁業士会長より、各県において漁業士研修時に目的をより明確にすべきとの意見が出た。宮崎では漁業士に認定されてから、漁協運営への寄与が漁業士の目的として伝えられるとのことであった。

②浮魚類の資源動向と今後の展望について

主にTAC対象種であり、本県と関連は薄かった。近年水温が低く、このような時期が続くとマイワシ資源が飛躍的に増大するという説があるとのことであった。

③各県活動報告

・沖縄県

ヤケ対策、パヤオについて報告した所、各県から質問が殺到し、予定時間10分をこえ22分もの間発表を行った。

・大分県

平成22年度に知事と大分県漁業士連絡協議会との意見交換会を行っていた。

知事選ということもあり、毎年やるかは不明とのこと。意見交換会を1時間行い、その後懇談会を1時間行っている。

・宮崎県

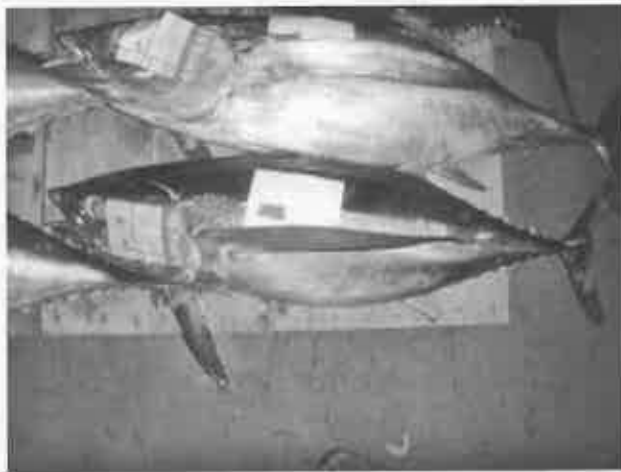
体験漁業にて、子供たちは魚の名前は良く知っていた。しかし魚を見ても名前が全く結びつかず、漁業士がショックを受けたとのこと。



鹿児島市中央卸売市場



キハダ1200円/kg、メバチ1500-2000円



沖縄県産ピンチョウマグロ（身質検査済）



水産庁による講演



アカマチ ~7.4kg 1200~2000円/kg



各県事例報告